

建築探訪(下松支部)

下松支部青年部長 米津 泰彦

みなさんこんにちは、下松支部の米津です。

立春が過ぎ、年度末が近づいてきた今日この頃です。今年度を振り返り、折角ですので青年部の活動の中で出会った建築の一部をご紹介します。

昨夏には、建築士会全国大会「おおさか大会」へ参加し、大会で空き時間やエクスカージョンの大阪万博での建築を見ました。

○うめきた公園・サウスパーク(SANAA)



大阪(梅田) 駅に隣接した大阪の中心地に開放的な広場が魅力的で、建築単体ではなく、都市との関係で成立し、大らかな時間と空間がこの場所に求められていたかのように感じました。建築群と異なり流線型など有機的な形状は、街の居場所や動線として自然な印象でした。

また、建築群が影響を受けたとも云われる梅田スカイビルを新たなアングルから見る事ができ、建築や都市との『対比(ギャップ)』に魅了される経験になりました。

全国大会の二日目の大阪万博では大屋根リングの大きさ、迫力には驚き、仮設建築物(万博オリジナルの扱いのようす)ではありませんが、



木造の可能性を大いに感じた体験でした。



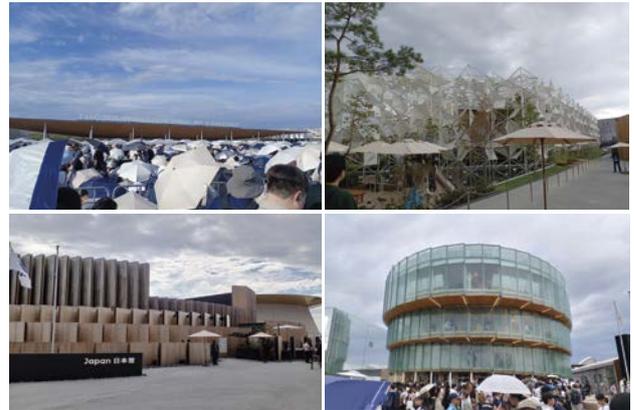
○ null2(落合陽一)
ミラー膜の外装で建物には見えないパピリオンに特化した外觀でした。音と共鳴して動く外觀(写真でお伝えができなく残念)は万博のテーマの生命を体現していて、その『発想力』の豊かさに魅了されました。

○休憩所 1(大西麻貴+百田有希/o+h)



布生地屋根に、主にトイレと木ベンチのある休憩所になります。布から光を少し透過させた屋根下空間は、木の温かみがあり、柔らかい光や風を感じました。そのため、多くの参加者が利用していたように思います。休憩のできる心地の良い空間を肌で感じ、『環境と素材』について考える体験となりました。

その他、たくさんの著名な建築家などによるパピリオン他気に入ったものを写真のみにりますが、ご紹介いたします。



今年度は若手建築士交流会が山口県(下関市)で行われました。下関と門司の街歩きで、近郊の街並みの良さを再認識し、実行委員として携わることで貴重な機会になりました。



その他、昨秋には青年部研修会は萩市で行われ、伝建地区など萩らしい建築を見学しました。



設計士となった今でも、建築を見ると、設計を目指す学生の頃の純粋な好奇心や葛藤がよみがえるように思います。また建築士会メンバーとの建築談義で、いつもと違う視点に触れることができることは、建築士会の醍醐味ではないかと思えます。

末筆ではございますが、山口県建築士会の益々の発展を祈念しまして、結びの言葉とさせていただきます。